

6 特別活動

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。特別活動においては、育成すべき資質・能力の視点として、三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）が重要な要素となる。また、特別活動と各教科等とが往還的な関係にあることを踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、教師の適切な指導の下、児童生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開できるよう配慮する必要がある。

（1）特別活動の趣旨を踏まえた指導計画・評価計画の作成を

学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、全教職員の共通理解と協力体制が図れるよう工夫した特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画を作成し、確実な実践と評価の累積・改善に努めていただきたい。更に、学校で定めた特別活動の評価の観点に基づき、各活動や学校行事の評価規準を作成して指導計画に位置付け、指導に生かす評価の工夫・改善を図っていただきたい。

《主な確認事項》

- 【計画】
- 特別活動の全体計画が下記の項目を入れて作成されているか。
（重点目標、学校教育目標や指導の重点との関連・各教科等との関連・評価の観点・各活動・学校行事の目標と指導の方針・各活動・学校行事の時数 等）
 - 授業時数については、児童会(生徒会)活動、クラブ活動(小学校のみ)及び学校行事の内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切に充てているか。
 - 中学校においては学級活動（１）の充実を図る観点から、学級活動（２）及び（３）の内容が整理されたことに配慮し適切な時数を充てているか。
 - 活動内容が児童生徒による自主的、実践的なものになっているか。
- 【評価】
- 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、特別活動の「評価の観点」及び内容ごとの評価規準が設定されているか。
 - 児童生徒の自己評価や相互評価を適切に行い、児童生徒のよい点や成長の状況を積極的に評価し、指導改善に生かしているか。

【評価補助簿の例】

知識・技能の評価

学級会ノートの記述から提案理由を理解しているか、計画委員会の活動から話し合いの進め方を理解し身に付けているか等を見取る。

思考・判断・表現の評価

話し合いの様子から、出された意見のよさを生かしたり、改善策を考えたり、組み合わせたりして考えているか等を見取る。

主体的態度の評価

実践の様子から、自分のよさを生かし役割に取り組んだり、友達と協働して取り組んだりし活動しているか等を見取る。

16 バランスのよい食事（2）					6/7 学級会（1）					7/10 そうじ名人					総括
知識・技能					思考・判断・表現					主体的態度					
名前	知・技	思・判・表	主体的	メモ	知・技	思・判・表	主体的	メモ	知・技	思・判・表	主体的	メモ	知・技	思・判・表	主体的
	日常生活について自己の課題改善のために必要な知識や行動を身に付けている。	事故の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に自らの解決方法を意思決定し、実践している。	よりよい生活のために他者と協働し、よりよい人間関係を形成しようとしている。		話し合いの進め方、まのめ方を理解している。	意見のよさを生かしたり、創意工夫したりして、発言し、積極的に取り組もうと	決定したことや自分の役割を友達と協働し、意欲的に取り組もうと		働くこと学ぶことの意義を理解し、自己実現のために必要な知識や行動を身に付けている。	自己の生活の課題を見だし、話し合って意思決定し、協力して主体的に活動している。	将来よりよく生きるために目標を立て、のよさを生かし、主体的に活動し、行動している。				
1	A	○	○	○											
2	B														
3	C														
4	D			○											

○やメモの記述がない児童について、児童のよさを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすことが重要である。

学級会では皆が納得するアイデアを改善策として発表していた。

一連の学習過程を通して、児童生徒の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価する。十分満足できる状況の場合、その都度、○をつけたりメモ欄にその様子の記述に日々を加えてメモを書いたりする。

どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。

どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。

○やメモの記述がない児童について、児童のよさを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすことが重要である。

学級会では皆が納得するアイデアを改善策として発表していた。

一連の学習過程を通して、児童生徒の様子を観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価する。十分満足できる状況の場合、その都度、○をつけたり、メモ欄にその様子の記述に日付を加えてメモを書いたりする。

(2) 学級活動の充実に向けて

学級活動の特質を踏まえ、教師の意図的・計画的な指導の下に、本時の活動だけでなく、事前・事後の活動を意図的に計画し、指導していくことが特に求められる。

《主な確認事項》

- ☐ 学級活動(1)(2)(3)の内容の特質が共通理解され、指導に努めているか。
- ☐ 学級活動(1)の議題は、学級や学校での生活をよりよくするための課題を児童生徒が見だし、選定されたものになるよう努めているか。
- ☐ 児童生徒が議題ポスト等を活用し、主体的に議題選定にかかわれるよう工夫しているか。
- ☐ 学級活動(1)の話し合い活動において、児童生徒が自発的、自治的な活動になるように、共通理解の下に計画的な指導が行われているか。また、中学校においては、小学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることを意識した指導に努めているか。
(議題のを見つけ方や選定方法・司会や記録の方法・話し合いノートの活用・円滑な学級会の進め方や合意形成の仕方・児童生徒による活動計画の作成等)
- ☐ 学級活動(2)(3)の1単位時間ごとの指導計画(略案)が児童生徒の実態に応じて整備され、意図的・計画的に実践されているか。
- ☐ 学級活動(3)の内容は、キャリア教育の視点から、将来に向けた自己実現に関わるものになっているか。また、一人一人の主体的な意思決定を大切にする活動になっているか。
- ☐ 学級活動(3)の内容が、夢をもつことや職業調べなどの活動だけになっていないか。
- ☐ 係活動と当番活動との違いが意識されているか。
当番活動：学級の生活が、円滑に運営されていくために学級の仕事をみんなで分担し、担当しなければならない活動で、学級生活の充実に資するもの。
係活動：児童生徒が仕事を見いだして創意工夫し、学級の生活をより主体的、自主的で豊かなものにしていく活動で、学級生活の向上に資するもの。

(3) 学級経営を柱とした望ましい集団活動の充実に向けて

各活動や学校行事においては「望ましい集団活動」を展開することが前提となっている。豊かな集団生活の基盤となる学級経営を柱としながら、教師の適切な指導の下、活動を通して児童生徒が助け合い、認め合い、自己のよさや可能性に気づき、望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度や自己を生かす能力が育成されるような実践に努めていただきたい。

《主な確認事項》

- ☐ 児童生徒の実態や保護者の願いを把握し、学校経営の重点化構想の努力点と具体策を踏まえた学級経営の目標を設定し、指導の系統性・一貫性のある学級経営計画が作成されているか。
- ☐ 学年目標・学級目標が、学校教育目標を受けて設定されているか。
- ☐ 学校経営の重点化構想をもとに、学級経営の目標を達成するために「いつ、どこで、何を(具体策)、どのように(方法)」実践していくのか明確な運営計画が具体的に示され、実践した取組が目指す学級づくりに有効であったかを検証し改善を図っているか。
- ☐ 学級経営について、学校全体・学年で共有し、それを保護者に伝えるよう努めているか。
- ☐ 各活動・学校行事において異年齢集団交流や幼児、高齢者、障害のある人々との交流や共同学習の充実に努めているか。
- ☐ よりよい生活を築くための集団としての意見をまとめる活動や、体験活動を通して気付いたことを振り返り、まとめたり発表し合ったりする活動等を通して、言語活動の充実に努めているか。
- ☐ 児童生徒の成長やよさを見取るために、事前から事後の活動を通じた評価の累積を行っているか。
- ☐ 児童生徒が、各活動や学校行事を振り返り、自他の成長を認め合う活動を行っているか。

(4) キャリア教育の要としての特別活動を

児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としたキャリア教育の充実を目指すことが求められる。そのために、校内体制の整備や共通認識のもとで、全校体制による指導の推進に努めていただきたい。

社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進

キャリア教育とは

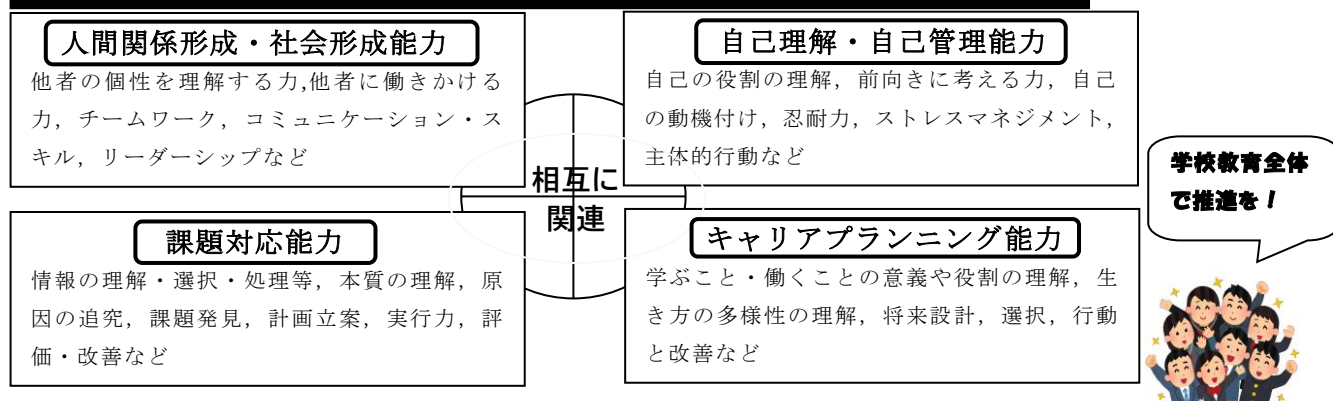
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア教育・進路指導のねらい

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育・進路指導を推進し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。

(「指導の指針」栃木県教育委員会 R4.3)

キャリア教育で育成すべき力「基礎的・汎用的能力 *」を構成する4つの能力



《主な確認事項》

- 学校・児童生徒・地域の実態から、児童生徒の個性の伸長や自己実現を目指し、「基礎的・汎用的能力*」を踏まえて、育成しようとする能力や態度についての目標を設定しているか。
- キャリア教育の視点を踏まえ、育てたい児童生徒像を明確にするとともに、各教科等との関連を図り、各教科等で育てた資質や能力を汎用的な能力に高める特別活動を通して、学校で学ぶことと社会との接続を意識しながら、キャリア発達を促すための系統的な指導計画が作成されているか。
- キャリア・パスポートは、その目的を意識し、各地域・各学校の実態に応じて工夫して整備するとともに、記録や累積の内容が、学級活動に偏らないように留意して累積されているか。キャリア教育は、教育活動全体で取り組むことを前提としているため、学級活動以外の教科や学校行事、帰りの会等の記録も累積されているか。
- キャリアパスポートに記述されている内容を基に対話的に児童生徒と関わることにより、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するものであることを意識して、授業等で活用できているか。
- キャリアパスポートは小学校から高等学校までの「教育活動」「校種」「人」等、様々なものを「つなぐ」ことによりキャリア教育の充実を図ることができることを踏まえ、学年、校種を越えて小中間の引継ぎに努めているか。(校種間の引継ぎは、個人情報保護の観点から、原則、児童生徒を通じて行うこととなっている。)

〈キャリア・パスポートの目的〉

- ① 児童生徒にとっては、小学校から高等学校を通じて、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの
- ② 教師にとっては、その記述を基に対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの